

平成 27 年度第 4 回図書館協議会会議録

【日時】 平成 28 年 2 月 27 日（土）午前 10 時 00 分～11 時 35 分

【場所】 キックス 3 階 特別会議室

【会議次第】

1. 開会
2. 館長挨拶
3. 会長挨拶
4. 図書館運営のあり方について（その 4）（答申）
5. 図書館事業評価について
6. 平成 28 年度図書館予算要望の概要について
7. 第 3 次子ども読書活動推進計画の策定について
8. 閉会

【出席者】

（委員）佐藤敏江会長、今木秀和副会長、浅尾千草委員、奥野和子委員、
小山克年委員、中平久美子委員、溝端秀幸委員、三根ゆみ委員

（事務局）森下館長、有村館長補佐（司会）、山本係長（記録）

【傍聴者】 1 人

【会議資料】

- ・平成 27 年度第 4 回河内長野市図書館協議会次第
- ・図書館運営のあり方について（答申）
- ・図書館事業評価
- ・平成 28 年度図書館予算要望の概要
- ・河内長野市第 3 次子ども読書活動推進計画（素案）
- ・河内長野市第 3 次子ども読書活動推進計画（素案）概要版

1. 開会
事務局紹介
スケジュール

2. 館長挨拶

事務局から出席委員が 8 名であり、河内長野市図書館協議会規則（以下「規則」という）第 3 条第 2 項の規定により本会議が成立したとの報告。

3. 会長挨拶

(事務局)

この後の議事の進行を会長にお願いいたします。

4. 図書館運営のあり方について（その4）（答申）

(会長)

それでは次第4の図書館運営のあり方（その4）について、本日は答申を取りまとめさせていただきますので、館長に答申させていただきます。

(会長から館長に答申を手渡し)

5. 図書館事業評価について

(会長)

それでは、次第5の図書館事業評価について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

(会長)

事務局からの説明が終わりましたので、皆さんからのご意見はいかがでしょうか。

(委員)

5 ページの事業計画⑩「えほんのひろば」の巡回展なんですけど、自己評価はAでこの上ないんですけども中学校が目標3校なんですよね。中学校は市内に7校あるので、小学校はほぼいけてるんですけども、中学校が目標3校で実績4校ということで目標よりも実績の方が上がってはいますが7校あるので、ヤングの方の取り込みというか、4校でとどまることなく努力していただいてAを取っていただきたいなと思います。「えほんのひろば」というと、ちょっと幼いという感覚が教職員の方にあるのかなと思ったりするので、「えほんのひろば」というネーミングも含めて考えてもらったらどうかなと思います。

(会長)

確か春には、ここは2校になっていたんですよね。委員さんの方から、去年3校だったのに減ったんですかという話になって、その時には中学校側との連携などいろいろと事情があってということで。教育長さんの方からご説明があったその部分ですね。

(委員)

そうです。

(会長)

今こういうご意見がありまして、おっしゃることは当然そうあるべきなんですが、これは鋭意努力していただいて、じわじわとカバーしていくということで。そういう風に受け取ってよろしいでしょうか。今は4校ですけど、これからさらに努力を重ねられて5、6、7校と。

(事務局)

なかなか難しいです。教育長はその時は7校とおっしゃってしまっていて、2から1校増やして3という目標にさせていただきました。次は4校かなとは思いますが、なかなかこちらの思いと中学校の思いは少し違っていて、しかし実際には絵本に囲まれている環境の所ではなくて、囲まれていない環境の所で「えほんのひろば」を実施することが本来と考えておりますので、委員がおっしゃられることは重々承知しております。しかし実際の所とはギャップはあるものですので、徐々に目標も上げていければと考えておりますが、できないのに目標7校というのはなかなか難しいと思いますので、その辺ご理解いただきますようよろしくお願いします。

(会長)

それと今、ネーミングの問題をおっしゃってましたが、その辺は実際やられていて、「えほん」が前に出てくることが、中学校側に「子どもじゃないよ」という抵抗があるような感じはあるんでしょうか。

(事務局)

ネーミングに対して抵抗があるという感触は持ったことはありません。「えほん」といってしまっても、中高生や大人も楽しめるものがたくさんありますし、持っていく本の中には写真集なども入れておりますので、実際その場に来ていただいた中では「子どもっぽい」とか「えほんしかない」という印象には全くならないので、問題はないと考えております。

(会長)

ほかにありますか。

(委員)

同じところなんですけれども、小山田小学校との懇話会というものがあって、そこで小山田小学校からこの「えほんのひろば」についてお話いただいて、今までは同学年でやっていたものを、異学年、6年と3年とか4年と2年とか学年をミッ

クスして行ったところ、高学年が低学年に読み聞かせをするという機会を設けて、その感想が、高学年の子たちが「えほんのひろば」は小さな子たちが読むものだと思っていたけどすごく感動したという意見と、小さな子もお兄さんお姉さんに読んでもらったということがすごく心に残るようだったということと、それは図書館の方から提案されたのではないかということを知りました。図書館の方からそういう働きかけをされたのかどうかということと、すごく評価されていたのをここでご紹介したいと思いました。それから、今、小中連携という形を学校がとっていますので、例えば中学校 1 年生と小学生というような組み合わせで「えほんのひろば」があってもいいかなと思いました。

(会長)

その辺り、ご意見いただきましたので、働きかけを学校がされたのか、図書館の方がされたのか。それから、もしできたらご意見を参考にして、新しい物ができたらいいなと個人的には思っているんですが、その辺り経緯はいかがでしょうか。

(事務局)

異年齢交流は今年度、初の試みとして図書館の方から企画して働きかけをさせていただきました。異年齢交流で応募されたのは数校だったんですけども、とても良い感触を持って下さっているようで、今後広がっていく可能性はあるのではないかと考えております。中学生と小学生の異年齢の交流というのは今年度は行っておりません。学校との調整がかなり必要かと思いますが、その辺りも今後視野に入れて考えていきたいと思っております。

(会長)

これからの課題ということでよろしいでしょうか。

(委員)

高学年の読んだ子たちがすごく一生懸命読んでくれて、子ども達にとっていいところだったみたいで成果があったと思うので、中学生にそういう経験をしてもらいたいと思いました。

(会長)

学校側のそういう声は図書館には届いているんですか。

(事務局)

今おっしゃってくださったような具体的なお話はまだ聞いておりません。今年度のプログラムがもうすぐ終了いたしますので、またお話が聞けるかなと思っております。

(会長)

では、今日は吉報でよろしかったですね。

(委員)

私も同じところで、1年生と6年生の異年齢の「えほんのひろば」に実際にお手伝いで行かせていただきました。確かに6年生の子達がとてもいい表情をしていて、今、過保護な子が多いせいでしょうか、自分が役割を求められるということがなかなかないみたいで、1年生から読んでほしいと求められるということがとても彼らにとっていい経験になっているなという風に感じました。先ほど館長さんがおっしゃったように、絵本がない環境にこそ「えほんのひろば」は必要だと私もやっぱり思います。中学生、特に受験生なんか「えほんのひろば」を持っていったらとてもいいだろうなと思うんですけども、なかなかやはり絵本というと中学生ではとっつきにくいかなと。先生方が、失礼だけれどもやっぱり絵本のことをよくご存じではないと思うので、中学生にはこんなものはいらないと感じていらっしゃる向きがあるかなとは思いますが、今、小学校の国語の教育要領の中にはブックトークをすることが含まれていると思うんですが、中学校にも含まれているのでしょうか。実際お聞きすると、小学校ではやはり先生方はお忙しいので、そんなに本のことばかり一生懸命やってもいられないのでブックトークをする機会というのはほとんどないそうなんです。あるいはやったとしても「これおもしろいで。」と1冊見せて終わり、それはブックトークではないんじゃないのと思うんですけども、そういう形でしかされてないようなんですね。もし中学校におはなし会などとセットでおはなしとブックトークみたいな形で持って行って、それを「えほんのひろば」の会場でやるということができれば、本の紹介もブックリストなんかの紹介以上に紹介することができるし、絵本にも接してもらおうことができるという風に思うんですがご検討いただけたらうれしいです。もうひとつ、幼稚園1校というのは、市立の幼稚園のことを言ってらっしゃると思うんですが、私立の方が河内長野の場合は多いですよね。その幼稚園の子達を取り込むということを考えると、幼稚園と個別に交渉するというのもあるとは思いますが、例えば公民館などで「えほんのひろば」をして、その地域の幼稚園の人達に広く広報すると、親子で来てもらえて、その方が効率的かなという風にも思いました。

(会長)

今、ご提案をいただきましたので、今すぐどうのこうのではないんですけども、これからやっていかれる中でいろんなやり方を変則パターンでやってみて、うまくいきそうだったらそういう形でご検討いただければありがたいと思います。絵本は絵の評価もですし、ストーリーもすごくコンパクトになっているけれどその行間を読まないといけないから年齢によって読み方が違ってくるんですけどね。大人もい

けなくて、つい、もう自分で読めるでしょとか、絵のないものにしなさいとか言ってしまいがちなので、大人もちょっと気をつけないといけないですね。ありがとうございます。ほかに何かありますか。

(委員)

全般的になんですが、目標の設定をどうするかというところで厳しい言い方をすると、今の学校の問題もそうなんですけど目標値をどこに置くかですごく変わってくると思うんです。難しいんですで終わってしまうとそこで止まってしまいうし、先ほど言ったように学校、幼稚園、保育所入れると、もう市内には数は決まっていますから、それが基本的な目標になるのかなと。そこからどう進めていくかによって、この評価がね、ABC あるんですけど、その中で今おっしゃっているような難しいところは表記して、皆さんに知っていただくということも大事かと思いますね。そうしないといつまでも A で終わっているけれど、見る人によるとなんでこれが A なのとなるのかなと。この目標というのはどうやって設定したのと、そんな風にまたなってしまうんで。どこまでを到達点とみるかによって、そこに目標が出てくるのかなと。開館時間なども、まあ言えば開館日数は決まっているわけですよ。到達して当たり前ということですから、A 評価になって当たり前なんですけど、当たりの部分を目標にしてもちょっと目標にならないのかなと。それと 2 ページの④なんですけど、この辺は中身の充実という形になってるんで評価が難しいのかなと。それを、指標をこの利用者数でいってしまうと、いくらいい物を作っても利用者が増えなければ評価は悪いのかというような、そうすると見方を別の物にしないといけないとか、せっかくやっているのにとこの辺りが何か工夫が必要ではないかと思います。それと 3 ページの⑥なんですけど、ここにある検索ツールとはどういう意味なんでしょうか。そして下の指標は開催講座数となってるんですけど。それから 4 ページの⑧なんですけど、登録した率になってるんですけど実際どれだけの方が利用したのか、登録している率だけでは、その後どれだけ利用しているのかなというところが分かりにくい気がするんです。いろいろ言いましたけど、目標の設定のところ、対前年度で同じ数字にするのか、それよりも増やして今年度が伸びますよという目標にするのかという辺りもちょっとここでは見えないかなという気がします。それと、自己評価説明のところ、表記の仕方が違っているところがあるので、同じ形で揃えてもらった方がいいのかなと思います。

(会長)

目標値をどこに置くかという問題は非常に難しいということと、これは 27 年度だけの評価ですけれども、長期の中の一環なのかということが見えにくいところがありますね。全部できたらいいんですけども、じゃあそこから先の評価はどう上げるんだ、120%なんかないじゃないかと、数値だけで追っていくといつか下がる時、停滞する時が来るという難しい問題もあるんですけども、かといって質でと

いうとなかなかそれも表記しにくいですよ。データベースのところなども、単に利用者数だけではなくて、こんな新しいものを構築しましたとかいうことも評価に入っているのではないかと、おっしゃるとおりにそういう気もしますし、そこ難しいんですが。それが1点と、検索ツールの意味というのは即答できることかと思いますが、それ以外のところは図書館の方も悩んでらっしゃると思います。自己評価説明のところは、表記を揃えた方が確かにすっきりする気がいたします。検索ツールにはどんなものがありますか。

(事務局)

検索ツールは、目録があるんですけども、それを今は紙ベースで持っているだけです。それから今はまだ1件だけしか出していないんですが、アーカイブズ的なもの、これは図書館のホームページで見ただけでしたら1件だけ出ています。そういったものも整備したいと考えていますが、これは予算がかかりますので、要望してもなかなかつかないのが現状です。しかし予算がつかない中でも、職員で電算に長けている者がおりますので、簡易なものですけれどもより郷土資料にアプローチしていただけるようなツールを作って公表して、もっと活用の方に進んでいきたいと思っておりますので、そういう意味での検索ツールの整備ということです。ただ、まだできておりませんので、今後に期待していただきたいと思っております。

(会長)

例えば、河内長野の歴史を調べたいとなれば、本のタイトルだけではなくて中身から、例えば地場産業だったら何ページに載っているということを一覧アップして、そういうものを一般的には図書館では検索ツールと呼んでいます。

(事務局)

パスファインダーというものがあまして、今ヤングコーナーにおいては整備できていますし、児童の方も整備できつつあります。この会議、それから子ども読書活動の推進の関係で推進会議を持っていますし、また学齢期の連絡会議というものがあまして、その中でも小中学校においてどのようなものを主題としたパスファインダーを作ればよいか意見を聞く場がありますので、そこで意見を聞きながら実態に合ったツールを作っていくと考えています。ここでは郷土資料の部分で書いておりますけれども、その他のところでも検索ツールの整備は図っております。現状は、そういったところです。

(会長)

目録よりもさらに細かい検索手段とでもいいでしょうか。それでは、皆さん自己評価の説明のところでは、やっぱり統一した方がよろしいでしょうか。うなずいていらっしゃる方が多いので、できたら統一していただきたいということと、それ

から目標の設定のところなんです、そう簡単にはいかないような気がしますので、ずっとこれからもありますので、数値だけではなくて質とか内容とかその辺をなんらかの評価方法がとれるかをご検討いただくということではいかがでしょうか。

(委員)

決めるのは図書館が決めるんですか。

(事務局)

そうです。

(委員)

余計に心配な気がしますね。例えば役所の中のどこかの部署と検討してこの数字にしようとかだったら説明もしやすいと思うんですけど、図書館が責められた時にどう説明するのかなと、そういうことで言ってるつもりなんですけど。まあそれさえクリアできれば目標設定は自己でできたらそれでいいのかなという気はしますけど。

(会長)

どこの図書館もこういうものがあって、何を設定するかで悩んでいて、例えば大胆にできようができませんが、全資料をデジタル化するというような目標を定めて、実は1%もいかないという、そういうのでもいいんじゃないかという人もいますんですけども、やっぱりあまりにも非現実的なものもどうかと思いますし、すごく目標とか数値の設定が困難で、でもあまり高い目標を掲げてしまうと青息吐息になって職員の士気が実現できないし、微妙なラインもあったりすると思うんです。どことも質とかそういうものでうまく表現できて、評価に取り入れられるといいんですが、何%という形になると評価が難しいんですね。どう取り上げていいかというのが。そこが恐らくこういう評価の仕方の悩ましい点だと思うんです。

(委員)

100ってというのが当たり前のところは、維持・継続という目標があってもいい気がするんですけども、ただそこに行っていないようなところをどうかさ上げるか、先ほど出ていた「えほんのひろば」を本当に重点的にするんであれば、ほかの所は現状維持というような形でも、そんなメリハリでもいいのかなと思います。

(会長)

おっしゃる意味わかります。全部をかさ上げるんじゃなくて、今年は図書館全体で子どもの絵本のとか、そういうことを挙げようよと。そうすると、本の購入から何から子どもの資料を充実させて、それに対して今年は絵本のことをしました、

じゃあ来年は郷土資料をしましよ、資料の収集から何から含めて郷土資料に重点を置いて、ほかは現状維持でそこを持ち上げましょ。そういうやり方もありますよというお話だと思うんです。両方ありますよね、確かに。

今すぐというのは無理なので、今年はこれを出していただきましたけど、そういうことも含めて検討課題にすると荷が重いですか？

(副会長)

こういうものは、一挙にはよくなるらないんですよ。徐々に徐々にやっていきながら、改善していいものに仕上げていく、という活動だと思うんですね。だから、もう整備されたいものができる訳ではなくて、検討しながら改善してよりいいものにしていく。例えば 1 ページのところ。一番最初に事業計画の①というところがあります。「市民の資料要求に応え、さらにその要求を広め高めて行くため、良質な資料を収集・提供します。」という目標なんですね。で、その指標として入館者数と貸出冊数が出ていますが、じゃあこれで例えば先ほど読み上げたところの、これが良質な資料収集・提供の判定指標になっているかという必ずしも直接つながっていない。ですからね、例えば良質な資料を収集・提供しますという以上は、じゃあその良質な資料は何によって、どういう基準によって判定できるのかということを考えないと、これが達成できているかできていないかという判断にはつながっていないですよ。だから少なくとも入館者数、貸出冊数で見る限り、その範囲においては一定の成果が出ている、A 評価にしてもいいと。しかしじゃあ良質な資料というのはどう判定するんですかという、例えばそういう問題が出ているし、ということでね、せつかく事業計画で目標を挙げても、それが実際に達成できているかどうかという評価指標と結びつくような形でやっていかないと、実際には PDCA サイクルを回したことにはならない。例えばね、同じことは⑥をご覧くださいと、「郷土歴史資料の普及啓発と活用を図るため、検索ツールの整備や関連講座及び資料の展示を行うとともに保存修復を行います。」と書いてあるんですね。そうすると、開催講座数で一定の講座を開いたんだなということはわかるんですが、保存修復したのは何で判定するんでしょうかという、これはできないですね。だから、保存修復とするのであれば、どれだけの件数をしたとかいう基準を別途設けてもらわないと、それが達成できたということにはならないということで、ですからせつかく掲げられた目標値と、それを判定する指標との間で適合性があるかどうか、適切かどうか、そういうことも実は検討していかないといけない。それで今後ここをこう変えようとか、これを追加しようとかいう形で、より判定できるような指標の項目を挙げていくと。そういう活動も含めて PDCA を回していく。ただ結果的に A でした A でしたというだけでは次の改善活動にはつながりませんから。そういう活動も是非やっていったらいいと思うんです。

(会長)

たしかにそうですね。例えば良質とは何で判定するか、これはひとつの例ですが、例えば日本図書館協会が出しているリストの本を全部入れていますとか、そんな感じの何らかの、これだったら世間が判定基準になるだろうと思うようなものを提示して、その100%をカバーしていますとか、そういう部分が必要なのではないかということですね。

(副会長)

それから、事業計画⑩で「えほんのひろば」が出ましたけれど、ここでは指標としては実施校数で出しているんですよね。確かに「えほん」といった場合に、僕らからすると中学生にとって「えほんのひろば」という表現でいいのかなという疑問も持ちますけれど、それであれば中学生もカバーできるような、もうちょっとこう誤解のない表現にできないかなということも別途検討しないといけませんし、それから「巡回展を実施します。」ということで確かに実施したんですよね。それで実施校数というので判定していますが、じゃあそれぞれのくらいの人 came たんですか、実は数人しか来ませんでしたという結果になってたかもわからないし、たくさん来たかもわからないし。そうすると巡回展の、例えばそこに参加した人数というのも別途立ち上げて、巡回展を実施し、これだけの人数が集まりましたという基準をもうひとつ追加するということもできますしね。そういう形で、せつかくの目標がどの程度達成できているかというのに相応しい基準というのを整備しておかないと判定しにくいということです。それから、事業計画⑪のところなんかは、「生活に役立つ図書館講座」、それから「児童を対象とした利用者教育講座」を開催します。つまり少なくとも目標値の中に「図書館講座」と「利用者教育講座」のふたつあるんです。それで、開催講座5講座ですというこの5講座、例えば極端な場合、利用者教育講座は全然やっていなくて、図書館講座だけで5講座でも達成できてますということになるんですけども、目標値は図書館講座及び利用者教育講座ですから、そうするとそれぞれ最低1回か2回はやっておかないと達成できたということにはならない。そうすると少なくとも、開催講座という風にまとめてしまうよりは、それぞれの講座を何回開いたとか、あるいはそこに集まった人数がこれぐらいで、盛況であったとか、開催はしたけれど人が集まりませんでしたという結果だったのか、その辺をもうちょっときめ細かく判定できるような基準を置くと実態が評価できるようになるんじゃないかと思います。まあその辺のところは、追々、年次的でいいんですよ。とりあえずの目標、基準で、それを改善していくことによって、よくしていったらいいわけですから。

(会長)

例えば、さっきお話がありました異年齢交流で、このような新しい展開が見られたら、これなんか評価のところ、今年新たな試みをしたらこういう反響があったとなれば、評価としたら数は一緒でも、新しいものをもってきて、それがうまくい

ったとなれば、またひとつ評価のポイントになると思うんです。前年度と同じに見えても中身を工夫して行って、いろんな方法を試してますということなんかもひとつのあり方だと思います。ご助言いただきましたが一遍には無理なので手探りだと思うんですけれど、先ほどいただいた意見なども入れながら、何か質的なもので評価できないか、数でも細かくこういう形でやれないかということ、今後ご検討いただけたらありがたいです。よろしく願いいたします。

(事務局)

図書館協議会で事業評価の方見ていただきまして、ご意見いただいておりますので、急にはなかなかできないかもしれませんが、当然よい物に仕上げていきたいと思っておりますので、ご忌憚のないご意見をいただきましたらまた取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(事務局)

「えほんのひろば」の小中学校での参加人数なんですが、6,451人の実績となっております。

(副会長)

少なくともそういうことがわかっているのであれば、人数も基準にいれておけば、さらに評価の角度が複数になりますからいいと思います。その辺のところをもっと整理していけばいいと思います。

(会長)

ほかにありますでしょうか。非難するということではなくて、提言するというという発想で是非、お気付きになられたことがあればお願いします。

(副会長)

別のところで、長年委員として加わっているところがあって、アンケート調査をしているんですが、調査をしたら満足度が100%近いんですよ。そうすると、確かにアンケートをしたらそうかもしれませんが、でも何か課題があるはずだから。100%に近いなら改善活動しなくていいねということになってしまうので、そこはね、もうちょっと工夫してきめ細かく項目を分けて、改善につながるような形でやらないと。PDCA というのは要するに、次に改善活動としてつなげていくと、つなげるためにじゃあもっとどこを改善したらいいのかということがわかるような判定指標にしておかないとだめなんですよ。そういうことですから、できるだけきめ細かく、数字が悪くても場合によってはいいわけで、改善するための課題が見つかったと思ったらそれはそれ自身、PDCA サイクルでいろいろやった意味があるということです。

(会長)

Aでなくても、その時によっていろんな事情がありますから、Cになった時に何が原因でこうなったか、ここをこうすれば今度ひとつ上がれるだろうという原因の究明ができていれば、評価は低くても、とそういう意味ですね。

(副会長)

そう思います。課題が見つかったから次年度はこの課題を重点的に取り組みます、と説明できると思います。

(会長)

無難じゃなくて、細かいところで課題を見つけて繕っていくというのが本来の目的ではないかと思いますので。

(副会長)

図書館運営のあり方、この中に出ているように、指定管理者じゃなくて皆さんがやっておられることのいい点というのは、そういうところにもあると思うんです。単に形式的に何かやったというだけじゃなくて、自主的にいいものに仕上げていくこういう活動をしてますということを言えるようにしておいたらいいと思います。そうすると、市民の皆さんもこういう緻密な取組をやっているんだなということで評価してくれると思います。そういうことで、結果よりも長いスパンでよりよいものにしようとしているということが伝わればいいんじゃないかと思います。

(会長)

ほかになにかありましたら、忌憚なくおっしゃってください。

(委員)

5ページの⑨で、「おはなし会等開催回数」「おはなし会等参加者数」という風に書いていただいでいて、去年この評価Bでしたよね。それを、「おはなしウォッチングはおはなし会に含まれないんでしょうか。」という意見があつて、その参加者数を加えることによって、今年自己評価がAになったのではないかと思うんですが、よろしいでしょうか。でしたら、夏休みおはなし会がものすごく大勢人数集めていますので、それも図書館の司書の皆さんも長い間おはなしを練習して、一緒に参加して、おはなし会やっているものなので、是非入れていただけたらいいなと思うのと、あと細かく質の面を見るというのであれば、おはなしウォッチングとか夏休みおはなし会、くろまるキッズの時にやっているおはなし会では大勢の子ども達を集められている一方、定期的なおはなし会では今なかなか参加者が集まらなくて、各会苦しんでいると思うんです。じゃあどうして集まらなくなっているのかという

ことを考えることも、質の向上という意味では必要かなと思います。開催曜日、時間がこれでいいのかとか、おはなし会の内容そのものがこれでいいのかとか、考えていけたらという風に思います。

(会長)

ボランティアで参加していらっしゃるが、もしかしたら職員よりもよく見えている部分もあるかもしれないので、そういうご意見も吸い上げてよりいいものにしていただきたいと思います。

ほかにありますか。よろしいですか。ないようでしたらこれで終わります。

6. 平成 28 年度図書館予算要望の概要について

(会長)

それでは、次第 6 の平成 28 年度図書館予算要望の概要について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

(会長)

事務局からの説明が終わりましたので、ご意見をいただきたいのですが、その前にちょっとひとつ事務局にお願いがあります。この予算表を見られて皆さん気がつかれたと思うんですが、前回コンビニ貸出についてこの場でご意見いただいた件について、簡単に結果の説明をお願いできますか。

(事務局)

結論といたしましては、なくなりました。ご要望のあった会派のところに生涯学習部長の方から説明にあがりまして、経費の割には効果の見えない事業でございましてと説明させていただきました。発案された先生は、それは発案の一端であって、大きくは ICT を利用した中でもっとサービスを伸ばしていけないかということでした。説明の方はよくわかりましたということで、ご理解いただいたものと思っております。

(会長)

ありがとうございます。

では、図書館予算要望の概要についてご質問など、皆さんいかがでしょうか。

(会長)

ひとつお聞きします。嘱託員 2 名で 361 万円減とおっしゃいましたが、2 名減

ったら図書館としては、かなり痛手ではないですか。

(事務局)

今、河内長野市は相当厳しい状況の中で、他市と比べまして嘱託員の人数が多いという観点がありまして、全体的に減らしていくという方針がありました。その中で、2名のうち1名は週3回勤務で来ていただいております、再任用職員が任期途中で退職しておりますので、その分の代替ということで雇用している嘱託員です。ですので、任期が1年ということで当然終われば1名減ということになり、これは当初から分かっていたことです。もう1名につきましては、図書館のカウンターの方で図書館サービスを担っていただきました嘱託員ということになっております。全体で17名なんですけれども、その中で1名減ということです。代替としては週5日勤務のアルバイト職員に置き換えるという形で、止む無く1名減ということになっております。

(会長)

ありがとうございます。ほかになにかありませんでしょうか。ないようですので、これで終わります。

7. 第3次子ども読書活動推進計画の策定について

(会長)

それでは、次第7の第3次子ども読書活動推進計画の策定について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から説明)

(会長)

ありがとうございます。これはほかの部局も関わっていますので、この場での意見は反映されるのでしょうか。

(事務局)

この素案でいかせていただきます、できあがりましたというところの報告です。ご感想はお聞かせいただければと思います。

(会長)

ご報告いただいて、もし何か皆さんが感じられたことがありましたら、また次の第4次の時などの参考や、アクションプランの事業計画の参考にできたらということで、いかがでしょうか。

(副会長)

数値目標のところ、例えば1番上の「0～18歳の図書館登録者率」は30年度が40.0%ならば32年度はせめて40.0%以上を目指すとか。同じ数値であれば仮に30年度に達成できたらそれでいいのかということになってしまいますので、気持ちとして以上を目指すということで。「小中学生不読率」で1.0%未満とされていますが、つまりこういう精神で、40.0%以上、それから「図書館から小中学校への団体貸出冊数」の6,000冊も以上という精神で書いております、と説明するときはそういう感じでいかがでしょうか。

(会長)

これは最低ラインですよ。これ以上を目指していますとおっしゃっていただいて。ほかに、アドバイスも含めてありませんか。

ないようですので事務局から連絡事項をお願いします。

(事務局から連絡事項説明)

(会長)

以上をもちまして、平成27年度第4回河内長野市図書館協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

以上